令和５年度伊豆市議会教育厚生委員会行政視察報告書

１４番　　三田　忠男

１．　　行政視察目的：伊豆市の現時点や今後の課題と思われる行政施策について、先進行政市町村を訪問視察調査し、現地の実施見分を行い、委員会で評価分析し、今後の委員会活動・議会活動に役立てる目的で実施した。

２．　　具体的な視察調査項目：

① 自然環境豊かな伊豆市の自然を壊さない、再生可能なエネルギー源取り組み
② 中学校統合後の廃校活用、小学校の今後の展開等の課題に対して、知見を得る
③ 伊豆市の主要事業である、少子化対応、子育て支援について、更なる施策の展開の知見を得ていく。
④ 伊豆市美術建設構想の議会・委員会等の活動に役立てるための知見を得ていく。

３．　　日　程：

１０月１７日：兵庫県洲本市：ウェルネスパーク五色
１０月１８日：兵庫県神河町：Resort によん in 神河、加西市：加西市役所
１０月１９日：兵庫県姫路市：姫路市立美術館

４．兵庫県洲本市ウエルネスパーク五色内の再生可能エネルギー施設設備

ウエルネス五色は、別名高田屋嘉兵衛公園（１７６９年～１８２７年で、海の豪商と呼ばれた廻船業者の土地を利用)、一般社団法人五色ふるさと振興公社が管理しています。『泊まる、食べる、くつろぐ、遊ぶ、学ぶ、体験する』をきゃちフレーズに運営されている。『くつろぐ』コーナーに『ゆ～ゆ～ファイブ』(五色温泉)があり、温度１９度の天然温泉を沸かしている燃料として、竹チップを使用し再生可能性エネルギーとして活用している。

洲本市は、１８２．３８平方キロで、淡路島の３０．６％を占め、人口４万１千人、高齢化率３６．６％、山林５７％、予算規模２３３億内市税５８億、職員定員６００名に対し４２２名。

瀬戸内少年野球団、北の零年、菜の花の沖、夏の終わり等の映画、小説の舞台の市。

本　題：

洲本市における再生可能エネルギーのとりくみ　講師企画情報部規格化高橋壱氏

平成１３年より、地域新エネルギービジョン策定。菜の花・ひまわりエコプロジェクト、クリーンエネルギー風力発電所建設、バイオディーゼル燃料製造、公共施設等利用太陽光発電設備、住宅用太陽光発電導入補助金、バイオマスタウン構想策定、高速メタン発酵処理によるエネルギー化調査研究、公用電気自動車購入、初期投資不要太陽光発電施設整備、洋上風力発電施設設備の検討、B5 燃料製造、地域再生可能エネルギー活用推進条例制定、平成２６年バイオマス産業都市指定、平成２８年竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーの設置。売電利益を基金化した洲本未来づくり基金設立。

竹チップ製造により、放置竹林の間伐等適正管理を行うことで、有害鳥獣による農業被害の軽減、美しい里山の保全、雇用の創出を図る。CO2 廃出削減に寄与。

産学連携による、全産業、市域生活の活性化、着地型観光等波及効果あり。

感　想：

大きな理念・構想の下、トライ＆エラーを認める行政の度量と、学習を重ね事業展開の獅子奮迅する公務員の存在なくしては、実現しない事業を思われた。

規模は違くても、理念や構想は共感でき、伊豆市民も共感できる放置竹林活用は多くの賛同を得る事業であると思います。伊豆市で事業化したい試みと感心させられました。【身近な資源である再生可能性エネルギーは地域活性化のためのツールのひとつ】地域活性化こそが本命である。

４．　兵庫県神河町：廃校になった跡地利用

兵庫県のほぼ真ん中に位置する、面積２０２平方キロ、８０％山林。人口１万人。４２００世帯。予算総額９１億円、うち町税１８億円。

町長自ら町行政の説明、課題等の意見を聞きことが出来ました。「若者が都市部に出て、少子化（３０名程度出産）で高齢化になり、世帯数も減少している。空き家が目立つ。自然と観光はある。高齢になり、まちに戻りたい希望者もいる。しかし家がない。少子化で、学校が不要になり、何らかの活用を考えていた。」

現活用者は南小学校跡地に『Resort によん in 神河』を運営。「学校が Resort 福祉施設になる感動が個々にある」とのキャチコピーで、サービス付き高齢者向け住宅２２部部屋、と小規模多機能型居宅介護２０名定員を賃貸契約業者が自前で全面内築改装して借用している。金額は現在無料、将来的には支払う契約になっている。議会では議論があったとのこと。業者側の説明が主で、いきさつや現況の説明がありました。

感　想：

どこの地域でも全国的な傾向で少子高齢化対応に追われている。その中で住民ニーズに応じた施策が求められ、真に必要な事業への批判は起きない。経済論理でなく、地域の活性化、そこで住む住民の生活安定のためにこそ公共施設の統廃合、活用はなされるべきだと思う視察でした。伊豆市においても、喫緊の課題のため、行政主導でなく地域

住民と膝を交えて活用方法を職員が地域に出向いて話し合い、総合計画の方針のもと進展していくとこと望む視察でした。

５．兵庫県加西市：ただのまち加西の子育ての応援施策の実際と伊豆市との比較

人口４２０００人、世帯数１８，４９０世帯、高齢化率３４．５７％、面積１５０平方キロ、予算４７３億円、市税６９億円、ふるさと納税６４億県内１位。出産者数平成２７年度２７０人、令和３年度１７４人、令和５年度１９７人。合計特殊出産率２７年１．３５、令和３年０．９１、令和４年１．１１で、年々減少していたが、４年度で上昇した。

現状打破として、施策検討のプロジェクトチームで検討し、組織の決裁を取り実施、財源はふるさと納税。１０年は財源が持つとの計算で実施。返礼品は「アラジンのトースターが主力」ライフステージに応じた子育て支援事業「結婚：出会いの機会増加、新婚世帯の経済的支援等。妊娠・出産：経費費用、産前産後サポート支援等。子育て：こども園等経費負担軽減等」子育て支援(子育て支援５つの無料化：すべて所得制限なし)

１．保育料の無料化：０-５歳時の保育料無料
２．給食の無料化：全保育・学校施設のすべての給食費
３．医療費の無料化：乳幼児から１８歳まで対象
４．おむつ等の無料化：生後３か月から満１歳まで
５．病児病後保育の無料化：看護できない場合の一時預かり

平成２４年から、医療費中学三年生までの無料化を開始し、徐々に副食、医療費無料所得制限撤廃、１８歳まで拡大。令和４年から本格的な子育て支援強化。

すべての負担金額は令和５年度予算で５億６千万円。(県・国５３００万円のみ)

１人当たり生まれて高校卒業までに約２５０万円の負担軽減になる。

導入効果：転入世帯３０２人世帯数２６５の内３３世帯（１２％）６９人（２３％）がこの制度のが決め手になり移住。制度を知っていた世帯は６８（２６％）人数１２０人（４０％）

「引っ越しの際、加西市が一番手厚いかったので移住。」したとの意見多数あり。

他の取り組みとして：認知されるための広報活動、プロモーション活度の強化。定住化に向けたその他の施策の展開：加西市 UJI ターン促進補助金（奨学金の返済補助)、加西市大学生等遠距離通学定期券助成制度、住宅建築のための住宅供給促進補助制度（土地売却者の長期譲渡所得金の３％補助。上限１００万円)賃貸共同住宅等建設促進補助事業(固定資産税、都市計画税の補助)

今後の課題：更なる分譲地の整備、地域ごとの公園整備、産後ケア施設の充実等

余談：言葉の駄洒落というか、ネーミングセンスに関西を感じました。

ただのまち加西：加西市でただ、幸せ！加西に暮らし多田、安心を。ただならぬポテンシ

ャル加西市独自の子育て支援。
加西の土産　　：喝采（かつさい）土産
カサブランカ：カサイ㋜ブラン㋔㋓㋛㋖、カサイでサイカイしたね。
　感　想：
　伊豆市と大差ないと感じましたが,発案をプロジェクトチームで企画したことが行政の縦割りの中で素晴らしいと思いました。市立病院の在り方を問う市長選が行われ、新市長が誕生し、職員人事異動が、１０月に行われた中での行政視察だったため、今後の動向を注視していきたいと思います。伊豆市としても、広報、プロモーション活用に力を入れ、全庁挙げての少子化対策、全庁挙げての移住対策の視点での今後の予算案作成をつくる必要を感じた視察でした。

６．　　姫路市：美術館における文化財の展示・管理やボランティア活動

姫路市立美術館：旧軍隊の建物を一時市役所として活用し、その後美術館としてリニューアルオープンした建物。企画展示室、コレクションギャラリー、アートライブラリー、作品寄贈者のコレクション室が配置されていた。市立ため姫路市の広報紙等が置かれ情報提供の役割りもはたしていました。
　学芸員の説明もあり、その後の作品の鑑賞は若干の知見の基に行い有意義な時間になりました。伊豆市の日本画展示構想を学芸員さんに相談したところ、日本画の保管展示は、難しく、採光や湿度、温度管理を厳密に行う室用があり、設計時での設備の検討や展示・保管に、日本画の詳しい専門家を配置する必要があるとの助言をいただきました。
　計画段階から市民参加の会合を持ち、市民参加型の美術館にしていかないと運営・経営的にも課題が残ると考えさせれた視察でした。
　今後の、議会・委員会活道の参考になる行政視察を無事終えることができ、委員会内での委員同士の総括を行いたいと思います。

以上で報告書といたします。